

# ミツカン水の文化センター企画展

8月 「水の学校」

「水の文化祭」

9月

開催しました！

ミツカン水の文化センターは、2018年8月と9月のおよそ2カ月間、ミツカングループが運営する愛知県半田市の体験型博物館「MIZKAN MUSEUM」（愛称・MIM [ミム]）にて、企画展「水の学校」と「水の文化祭」を開催しました。いずれも、身近な存在である「水」への関心を高め、水に対する感謝の気持ちを思い起こすきっかけを提供したいと考えて企画したものです。その内容の一部をご紹介します！



知多半島を流れる地元の矢勝川（やかちがわ）を模したプロジェクションマッピングのイメージ画像。川に入るとそこに棲む生物が飛び出てくるしくみになっている

## 9月 写真と絵はがきで文化の秋！

### 「水の文化祭」

企画展第二弾となる「水の文化祭」は、2018年9月1日～9月29日に実施しました。文化の秋、芸術の秋にちなみ、展示内容を学校の文化祭プログラムに見立てたものです。

機関誌『水の文化』の掲載写真をフラッシュ撮影すると写真に変化が起こる「不思議な水の文化写真展」や、重ね押しスタンプでつくる「オリジナル絵はがき作り」、機関誌『水の文化』を閲覧できる「水の図書室」コーナーなどを用意。作品づくりや読書を通じて、水の文化が感じられるような内容を目指しました。



スタンプを重ね押しすると、版画のような風合いの絵はがきが完成する（上から「MIZKAN MUSEUM」「弁才船」「半田運河」）



機関誌「水の文化」から選んだ写真をフラッシュ撮影すると、このような変化が現れる

## 8月 夏休みの自由研究はお任せ！

### 「水の学校」

「水の学校」は、2018年8月1日～8月29日に開催しました。展示内容は、水への意識・関心が高まる時期（8月1日は「水の日」、8月1日を含む1週間は「水の週間」）であること、そして夏休み期間なので子どもたちの自由研究のヒントにもなるよう心がけました。

実演販売士が水の大切さをわかりやすく解説する動画や、投影された川に入ると生物が飛び出すプロジェクションマッピングなどを通して、体験しながら水循環や地域の水の文化、水辺の生きものを学べる構成にしました。



実演販売士のボス水野氏が「天ぷら油はなぜ流してはいけないの？」と「知多半島を支える愛知用水」をテーマに解説した動画。子どもも大人も楽しめる構成になっている



授業内容を書き込んで持ち帰ることができる記入式ワークブック「夏休み水の学校 復習ドリル」。子どもたちの夏休みの自由研究にうってつけ。大勢の人が訪れた

## MIZKAN MUSEUM（ミツカンミュージアム）とは？



ミツカンの酢づくりの歴史やものづくりへのこだわり、食文化の魅力などにふれ、楽しみ、学べる体験型博物館です。ご見学は事前予約制となっておりますので、お手数ですが事前にお申し込みくださるようお願いいたします。

住所：〒475-8585 愛知県半田市中村町 2-6  
 電話番号：0569-24-5111  
 入館料：無料（ただし MIZKAN MUSEUM 常設展示コースは、大人 300 円～100 円、小中高生 200 円～50 円）  
 休館日：木曜日（祝日の場合は開館、翌金曜日が休館）  
 および年末年始（くわしくはホームページをご覧ください）  
<http://www.mizkan.co.jp/mim/>



8月、9月の企画展を実施した展示スペース。中央にあるのが矢勝川を模したプロジェクションマッピングの装置

休載のお知らせ

活動20周年の節目にあたる60号は、通常とは異なる誌面構成としました。そのため、ご好評いただいております連載「水の文化書誌」「魅力づくりの教え」「Go! Go! 109水系」は休載いたしました。次号(61号)からの再開をお楽しみに！

## 水の文化 Information

### ■「水の文化」に関する情報をお寄せください

本誌「水の文化」では、今後も引き続き「人と水のかかわり」に焦点をあてた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根ざした調査や研究がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

### ■ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください。

<http://www.mizu.gr.jp/>

### ■水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページからPDFファイルとしてダウンロードできるほか、冊子をご希望の方はホームページの「最新号のお申し込みボタン」からお申し込みいただけます。どうぞご利用ください。

### ■「水にかかわる生活意識調査」ホームページで公開中

20年以上にわたり、ほぼ同じ内容で日常生活と水とのかかわりや意識、水と文化に関する生活意識調査を実施しています。結果はすべて公開していますので、ぜひご利用ください。

## 皆さまの感想を お待ちしております！

『水の文化』60号について、アンケートにご協力ください。  
今後の機関誌をよりよくしていくための参考にさせていただきます。

◆アンケートへの回答はこちらから。

<http://www.mizu.gr.jp/form60.html>



※アンケート用紙をお持ちの方は、FAXまたはメールにて  
下記へご返信いただく形でも結構です。

FAX: 03-3568-4025

メールアドレス: [mizubun@mizu.gr.jp](mailto:mizubun@mizu.gr.jp)

### 編集後記

センターの20年目という節目にあたり、水を今まで守ろうとしていた方やこれから将来水を守ろうとする方を「水の守人」として話をお聞きした。ミツカン水の文化センターも水と人から生み出される「水の文化」を発信し続けることで「水の文化の守人」であり続けたい。(浅)

センターが積み重ねてきた「水の守人」たちとの出会いの足跡が、機関誌60冊の中にぎっしりと詰まっている。「数字で見る機関誌『水の文化』の20年」をみて、実感した。この貴重な出会いの記録を、次世代に水の文化を伝える糧に変えられるような活動をしていかなければ、と強く感じた。(松)

ウニが得意ではない私がいちご煮を取材した。青森県の真っ青な海から獲ったばかりのウニを、水で丁寧に洗ってから調理してくれるお店で食した。獲った場所ですぐに食べたこの経験から、正に我々は水のお陰で生きている事を痛感した。それにしても、獲れたてのウニはウマかった。(FG)

全国各地で活動している水の守人。守人たちは、生きていく上で必要不可欠な水に対し、活動自体は様々でも、大切な水を守りたいという同じ想いを持っている。水の文化を取材する者として、守人の想いを自分の生活においても重ねると共に、今後多くの水の文化に触れていきたいと思った。(青)

先日、海外へ旅行に行く機会がありました。飲み水はベクトポトルのミネラルウォーターを購入。日本では蛇口をひねると、飲料用水が当たり前に出てくる。ありがたいことなのだと再認識しました。水道インフラを支える「守人」に感謝です。(飯)

取材先を訪れた際、「こんなに大勢で来るとは思わなかった」とよく言われるぐらい、なるべく多くの編集部員で足を運び、つくりあげてきた「水の文化」。時間もかかり効率の悪いときもありますが、それを20年、地道に続けてきたことは、数字では表しきれない財産になっていると自負しています。(力)

石徹白での取材中、かつて大都市でライブハウスを経営していた30代の男性に出会いました。東日本大震災を機に「水の豊かな地域で暮らしたい」と考え、家族で石徹白に移住したそうです。さつきまでイノシシをさばっていたと笑顔で話す日さんは、まさに次の世代の守人でした。(前)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化 第60号

ホームページアドレス

<http://www.mizu.gr.jp/>

発行

ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中塾ビル

株式会社 Mizkan Holdings

Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

発行日

2018年(平成30)11月

企画協力 (氏名50音順)

沖 大幹 東京大学生産技術研究所教授  
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会  
陣内秀信 法政大学名誉教授  
鳥越皓之 大手前大学学長  
中庭光彦 多摩大学教授

制作

浅野修弘  
松本裕佳  
Fleminger George  
青木広実  
小林夕夏  
久保悦史  
飯野真奈実

編集製作

前川太一郎 編集  
中野公力 デザイン・撮影  
蔵田 豊 デザイン

執筆

秋山健一郎 (pp.24-27, pp.46-49)  
佐々木 聖 (pp.18-23, pp.32-41)  
手塚ひとみ (pp.50-56)  
前川太一郎 (pp.14-17, pp.42-45)  
若井 憲 (pp.28-31)

撮影

大平正美 (p.29, p.40)  
葛西亜理沙 (pp.13-16, pp.42-49)  
川本聖哉 (pp.54-56)  
鈴木拓也 (p.2, pp.18-23, pp.32-37)  
藤牧徹也 (pp.24-27, p.50)

印刷

中塾総合印刷株式会社

※禁無断転載複写